

新しい風邪と新しい風

1年間、魔法の Wallet プロジェクトを進めてきた。スマホがお財布になっていく時代に多くの人たちは対応出来るのであろうか？消費税のアップに伴って、電子マネーの利用によるポイント還元が行われた。それによりモバイル決済が進むと思いきや、Visa & MMD 研究所が 2020 年 1 月に行った調査によると、「キャッシュレス化が進んで欲しいか？」の問いに 45.2%がそう思わないと答えている。すぐに新しいものに移行するのがいいとは限らない。しかし、大人の保守性が子どもの未来を暗くする可能性を考える必要がある。一般的に、子どもは柔軟だと言われる。しかし、過度に変革を嫌い、安定を好む保守的な社会の中で育った子どもたちが新しい時代に柔軟に対応できるかどうか分からない。その間にも世界の中で日本が取り残されていく可能性もある。教育の変化はゆっくりである。しかし、社会は目まぐるしい速度で変化している。子どもが社会に出るときに、学校で教えたことが陳腐化する時代であることを忘れてはならない。このプロジェクトに参加した先生たちがスマホをお財布にして、新しい時代の生活をリアルに感じ、新しい教育のアイデアが生まれたなら今年度のプロジェクトは成功である。

この原稿を書いている間にコロナウィルスの流行によって全国の学校が一斉休業に入った。親が働けなくて困ると言う議論ばかりで、子どもの学びの機会が失われると言う議論が少ないのは寂しい限りである。私立学校の一部では、すぐに ICT を活用した自宅学習が始まった学校もあると聞くが、公立学校では、何も対応できず子どもを休ませているところがほとんどである。経済格差が子どもの学習に格差を生むことは避けなければならない。2020 年度から国はギガスクール構想として児童・生徒一人一台の PC 端末の整備を始める。予算の無駄と言う批判も聞くが、経済格差の拡大も子どもの学びの機会格差に繋がっていることを考えると、このチャンスを積極的に活かし新しい学びの場を構想すべきだと考える。

次年度の魔法のプロジェクトのテーマは「魔法の Medicine」。学習機会を失ったり、制限された子どもたちの学びの特効薬をみなさんと考えていければと思う。